

地球温暖化対策実施状況書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 （届出者）の名称	株式会社ビックカメラ
地球温暖化対策事業者 （届出者）の住所	東京都豊島区高田3-23-23
工場等の名称	株式会社ビックカメラ 名古屋JRゲートタワー店
工場等の所在地	愛知県名古屋市中村区名駅1-1-3 地上9階～10階
業種	卸売業、小売業
業務部門における 建築物の主たる用途	物販店
建築物の所有形態	賃貸ビル等（賃貸している建築物）
事業の概要	カメラ、パソコン、OA機器、ビジュアル製品等の販売
計画期間	令和3年4月1日 ～ 令和6年3月31日

2 地球温暖化対策実施状況書の公表方法等

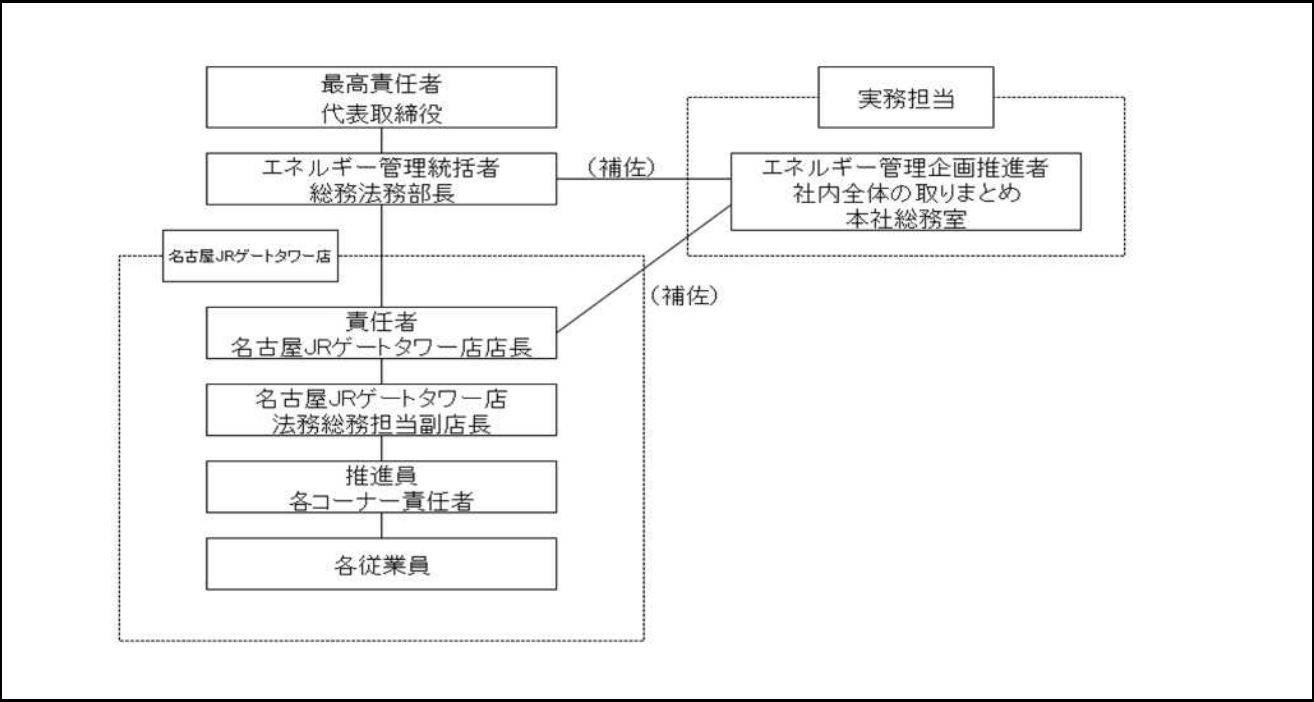
公表期間	令和6年7月30日 ～ 令和6年10月28日		
公表方法	○	掲示 閲覧	（場所） ビックカメラ名古屋JRゲートタワー店9階総合案内カウンター
		ホームページ	（HPアドレス）
		冊子	（冊子名・ 入手方法）
		その他	（その他詳細）
公表に係る問合せ先	03-3987-8899		

3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

(1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

ビックカメラは、小売業を通じて、お客様のより豊かな生活を提案する企業としての社会的責任を認識し、法令遵守を徹底するとともに、環境配慮を通じて社会に貢献するため、以下の取組みを進めてまいります。 1. サーキュラー・エコノミー（循環型社会）の実現に貢献します。 ○小型家電リサイクルの宅配回収、戻り便回収及び下取品回収により金属・プラスチックの再資源化を図りリサイクル事業を強力に推進してまいります。 ○小型充電式電池リサイクルの回収促進に積極的に取組みます。 ○グループ会社のネットワークを最大限活用し、リユース事業を積極的に推進します。 ○本社事務所内、店舗、センター等で発生する廃棄物の抑制、適正な分別処理に取組みます。 2. 脱炭素社会実現のため、再生可能エネルギー事業を推進します。 ○当社サステナビリティ推進の取組みとして、再生可能エネルギーの活用及び温室効果ガス（GHG）排出量削減を目的に、メガソーラー発電所やオンサイト PPA 等の導入利用の取組みを推進します。 ○お客様の省エネ促進に寄与する再生エネルギーの利用プラン等の提案サービスを実現させます。 ○TCFD 提言への賛同を表明し、気候関連のリスク及び機会に関する「ガバナンス」、「戦略」、「リスク管理」、「指標と目標」についての取組みを情報開示します。 3. 省エネ家電製品・サービスの普及促進を強力に推進します。

(2) 地球温暖化対策の推進体制



4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 3 年度目（令和 5 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		1,663	t-CO ₂
（温室①を酸効除炭ガス換排出量）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）	1,663	t-CO ₂

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 2 年度		令和 5 年度		令和 3 年度		令和 4 年度		令和 5 年度	
温室効果ガス総排出量	1,661	t-CO ₂	1,661	t-CO ₂	1,578	t-CO ₂	1,667	t-CO ₂	1,663	t-CO ₂
削減率（対 基準年度）			0.0	%	5.0	%	▲ 0.4	%	▲ 0.1	%
温室効果ガスみなし総排出量						t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対 基準年度）						%		%		%

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 2 年度		令和 5 年度		令和 3 年度		令和 4 年度		令和 5 年度	
原単位あたりの排出量										
削減率（対 基準年度）				%		%		%		%
原単位あたりのみなし排出量										
削減率（対 基準年度）						%		%		%

（2）進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

2023年5月にコロナ感染症が5類に変更となった事で、前年から客数が増え店内空調の使用量と展示商品の通電での使用量が増えた事が目標年度の温室効果ガス排出量に届かなかった要因と考えます。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

[illegible]

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 3 年度目（令和 5 年度）における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区 分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
電 力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値（クレジット等）の活用状況

計画期間 3 年度目（令和 5 年度）におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量（みなしの削減量）の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

クールビズ・ウォームビズの実施。 5/1～10/31までをクールビズ期間 11/1～3/31までをウォームビズ期間とし、通年ネクタイの着用は自由としている。

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

--